

もりおか復興応援フリーマガジン

Stitch

[ステッチ]

TAKE
FREE

vol.16
2015.6.25

発行／盛岡市

守りたい、支えたい
未来に咲く、
子どもたちの花。



[特集]

「復興」を生きる子どもたち

インタビュー

錦木 [大相撲力士]

守りたい、支えたい
未来に咲く、
子どもたちの花。

突然の悲しみに
重く沈んでいたあのとき
子どもたちの笑顔は
希望の象徴だった。

天真爛漫であどけなくて
灰色のまちに
ばあっと、花が咲いたよう。
この笑顔を守りたい。
その思いが、前に進む力になった。

…だけどあの日、傷ついたのは
子どもだって同じだから



もりおか復興応援フリーマガジン

Stitch

[ステッチ]

vol.16 2015.6.25

- 02 守りたい、支えたい
未来に咲く、子どもたちの花。
- [特集]
- 04 「復興」を生きる子どもたち
- 12 三陸うまいもん紀行 カフェめし編
- 14 児童・生徒と各学校の現状
- インタビュー
- 16 錦木 (大相撲力士)
- 20 守りたい人がいる
守りたいまちがある
- 22 Re:Stitch ~読者のみなさんから~
- 23 プレゼント

発行日 / 2015年6月25日
企画・編集 / 株式会社ラヂオもりおか
〒020-0871 盛岡市中ノ橋通1-1-21
TEL.019-621-7110 FAX.019-621-7153
デザイン / 冬部幸治 (創造集団 志庵)
印刷 / 山口北州印刷株式会社
Special Thanks / 取材、制作にご協力いただいた皆様

※取材、撮影、制作など本誌作成にご協力いただいた
皆様に厚く御礼申し上げます。
※掲載されている情報は平成27年6月1日現在のもの
です。発行後の情報変更につきましてはご容赦ください。
※このフリーマガジンは、盛岡市の復興推進広報事業
によって発行されています。※無断転載禁止

小さな身体のなかにある未来。
明日に咲く、希望の花。
光に潜む影も、隠れたトゲも
見逃さないで、寄り添っていきましょう。
おもい思いの花を咲かせる
そんな未来を、つくっていきましょう。



Facebookでも
情報を発信中!



「復興」を生きる子どもたち



今回の特集は「子ども」がテーマ。
津波で親を亡くした遺児への支援、
精神科医療からみた子どものケア、
そして、つらい体験を乗り越える力、など
それぞれの切り口で紹介しています。

子どもの笑顔は、未来への希望。
だからこそ、表には見えない
さまざまな思いにも心を寄せたい。
改めて、そんなことを思った取材でした。

震災で親を亡くした子どもたちの心のままを受けとめる場所

陸前高田レインボーハウス



「陸前高田レインボーハウス」は、震災で親を失った子どもたちの心をケアする施設として、2014年6月にオープン。病气、災害、自死等による遺児や、重度の後遺障害で働けなくなった家庭の子どもたちを支援する「あしなが育英会」が運営しています。

同会が阪神・淡路大震災の遺児のためにつくった「レインボーハウス」を、東日本大震災で被災した東北にもつくろうと、宮城県の仙台市、石巻市、そして岩手県陸前高田市の3カ所に建設しました。

「陸前高田市や大船渡市、宮城県気仙沼市など気仙エリアの子どもが中心ですが、岩手県全域からやってきます。内陸に住んでいても、親が仕事先で津波の犠牲になった、という子どもいますから」

そう話すのは、あしなが育英会東北事務所の富樫康生さん。屋内には身体を動かすのに十分な広さの「多目的ホール」、いだちを思い切り発散できる「火山の部屋」のほか、「おしゃべ

りの部屋」「遊びの部屋」などがあり、子どもたちは「ファシリテーター」と呼ばれるボランティアスタッフが見守るなか、好きな場所でおもい思いの時間を過ごします。

「震災という大きなショックを経験し、またそれによって親を失った子どもたちは、感情をうまく整理することができず不安定になったり、周りに遠慮して自分の気持ちを溜め込んでしまいがちです。ファシリテーターは、そんな子どもたちの心の揺らぎもまろること受け止め、見守るのが役割。子どもたちが安心して『そのままの自分』でいられることを大切にしています」

養成講座でコミュニケーションや自身のセルフケアといったスキルを学び、現在ファシリテーターとして携わっている人はおよそ20人。学生から70代まで幅広く、地元だけでなく盛岡など内陸部から参加している人も多いとのこと。

「気をつけているのは、子どもの主



1. 「ひとやじぶんのからだ（こころ）をきずつけない」「いたくないことはパスできる」……ホールに貼られていたレインボーハウスの「ルール」。2. たくさんのぬいぐるみが並ぶ「おしゃべりの部屋」。ぬいぐるみを抱くことで気持ちが落ち着いたり、ぬいぐるみに話しかけるように気持ちを吐露する子どももいるという。3. 気持ちを言葉で表現するのが苦手な子どもは、イライラを自分の中に溜め込んでしまいがち。「火山の部屋」は、そのストレスを思い切り発散できる部屋。



導権を奪わないこと。こちらがリードするのではなく、子どもたちの『何をしたいか、どうしたいか』を引き出し、尊重することです。『自分で選んでいい』という経験を重ねることで、人生を自分で選択し、歩く力にしてほしいと考えています。とはいえ、何でも子どもの言う通りにさせる、ということではありません。子どもの行き過ぎた言動でファシリテーターが傷ついたときは、つらいと伝えてもいい。無理をして子どもに合わせることはしない。子どもとのいい関係を築く上でも大事なことです」

現在、陸前高田レインボーハウスにやってくる子どもは4歳～大学生。大学生は「先輩」としてサポート役に回ってくれることが多いのだとか。

レインボーハウスは、「そのまま」を受け止めてくれる大人たちに見守られながら、つらい体験を同じ境遇の子どもたちと共有し、自分なりの未来を見つけていく場所。現在は月に4～5日の不定期開館ですが、将来的には



4. 取材に対応してくれた富樫さん。「あしなが育英会」のサポートで進学した、子どもたちの先輩でもある。5. 市内の高台に建つ「陸前高田レインボーハウス」。建設にかかる費用はすべて寄付金でまかなわれた。

日帰りだけでなく宿泊のプログラムもできる場所にしたいと富樫さん。「子どもたちを育てている保護者や里親の方たちも、いろいろな葛藤や戸惑いを抱えているはず。里親同士が交流・共感できる場も、もっと作ってほしいです」とも話します。

陸前高田レインボーハウス

陸前高田市高田町字鳴石112-7 TEL 0192-22-7558

あしなが育英会 <http://www.ashinaga.org/>

震災遺児のいまを見守り、未来を支える

「いわての学び希望基金」

三陸を中心とする東日本の沿岸各地に大きな被害をもたらした東日本大震災。死者4672人、行方不明者も1129人(※)に上る岩手県では、両親を震災で亡くした「被災孤児」が94人、父親か母親のどちらかを失った「被災遺児」が489人います(平成26年11月1日現在。発災当時18歳未満)。また、震災により仕事を失った家庭も多く、厳しい経済状況に置かれている子どもは多数いると推測されます。

こうした子どもたちが自らの希望に沿った学校を卒業し、社会人として独り立ちするまで、息の長い支援を行うことを目的に、岩手県では平成23年(2011)6月に「いわての学び希望基金」を設置。全国から善意の寄付を幅広く募っています。

(※)平成27年5月末日現在

【現在の受付状況】※平成27年5月末日現在

件数 / 15,685件

総額 / 75億5623万9670円

【寄付金はどんな風に使われる?】

寄付金は被災した地域の高校生が教材や制服をそろえたり修学旅行に参加するためなどに必要な資金、小学生・中学生や高校生が文化部・運動部の大会に参加するための経費、また、この震災により親を失った子どもたちが、希望する進路を選択できたり、勉強やスポーツ・文化活動等に励んだりできるよう、社会に出るまでに必要な「くらし」と「まなび」に要する資金として活用します。

【基金を利用し、社会に巣立っていった子どもたちの声(抜粋)】

震災当時、私は大学3年生でした。高校2年生と中学3年生の弟が生き残り、両親がなくなったと知った時、一番初めに「これから弟たちをどうやって生かしていこう」と思ったことを覚えています。しかし、その不安は、本奨学金をはじめ多くのご支援のおかげで「やっていける」という希望に変わりました。ご支援していただいた全国の皆様のおかげで、私も弟2人も不自由することなく自分の進みたい道に進むことができています。本当にありがとうございます。

私は、「いわての学び希望基金」奨学金制度を利用して頂き無事に大学を卒業することができました。岩手にこのような制度をもうけて下さった事に深く感謝しております。東日本大震災で親を亡くされたり、家を失うなど、学ぶ事が難しくなった方々がたくさんいらっしゃると思いますが、学ぶ事をあきらめずに、続けてほしいと思います。

震災時、進学を2週間後にひかえ、津波にて父が死亡し、自宅は流出し、途方に暮れました。奨学金という支えがなかったら、進学は無理だったかもしれません。失業した母からの仕送りもなく、ムタをひかえ、学業に励み、無事卒業・国家試験合格を果たす事が出来ました。寄付者の方々には、本当に感謝でいっぱいです。

【寄付の手続きは?】 寄付申込書は「個人」と「法人(団体)」の2種類があります。

●岩手県ホームページからダウンロード

<http://www.pref.iwate.jp/shien/link/14902/003243.html>

トップページ ➡ 震災復興 ➡ 支援をする ➡ 支援事業リンク集 ➡ いわての学び希望基金 ➡

➡ いわての学び希望基金へのご寄付のご案内

寄付申込書に必要事項を記入のうえ、下記の問い合わせ先にファクス、電子メール又は郵送で送付。併せて、金融機関において、下記の口座への寄付金を振込(個人の場合は、県の納付書、現金書留、クレジットカードでの寄付も可能です)

●問い合わせ先●

【個人の方】

岩手県総務部税務課

〒020-8570 盛岡市内丸10-1

☎019-629-5144 ファクス019-629-5149

電子メール:AH0004@pref.iwate.jp

【法人・団体の方】

岩手県復興局復興推進課

〒020-8570 盛岡市内丸10-1

☎019-629-6922 ファクス019-629-6944

電子メール:AJ0001@pref.iwate.jp

●振込口座●

●銀行名 / 岩手銀行 支店名:県庁支店

●口座番号 / 普通預金 2017186

●口座名義人名 /

津波・震災孤児等支援寄付

(ツナミ・シンサイ・ジョウ・エンキフ)

子どもたちのSOSを見つけて 支える「こころの専門家」

いわて子どもケアセンター



「いわてこどもケアセンター」は、2013年5月にオープンした岩手初の児童精神科専門医療施設。クリニックでの診療のほか、被災地への巡回診療、行政や学校との連携による相談、支援者向けの研修、調査研究等の機能を持っています。

成長過程にある子どもの心のケアには、大人のそれとはまた違う難しさがあります。震災から4年が経った今、心のケアを必要としている子どもたちは、どんな背景を抱えているのでしょうか。

「小さな子は気持ちを上手に言語化できないので、行動に問題が見られるようになったり、腹痛などの身体的症状が現れたりします。大人のように対面でカウンセリングするのではなく、遊びなどを通して、行動や表現から汲み取ろうとすることが多いです」と、副センター長の八木淳子さん。八木さんは震災の直後から被災地を巡回し、子どもたちの「心のSOS」を受け止めてきました。

傾向としては、震災から時間が経つにつれ、中高生、つまり震災当時小学校高学年ぐらいたった子どもへの受診が増えてきたとのこと。

「思春期前後の子どもは、何が起ったかを把握する認知力はあっても、物事の優先順位を判断したり、体系的に整理する価値観が未成熟です。例えば『一緒に頑張ろう』といったスローガンも、大人ならほどほどに流すことができますが、価値観の形成期にある子どもは100パーセント真に受けてしまう。さまざまなことを正面で受け止めるうちに現実とのギャップを感じ、無力感からうつ症状が現れることもあります」

また、家の都合や進学で内陸に転居した子どもが、センターに受診にくるケースも増えていると八木さん。「被災地では『みんなも大変だから』と頑張ってきたのに、内陸に来たら『自分だけが違う』と疎外感を感じてしまう。気丈に振る舞ってきた子ほど、それまで身を置いていた現実世界との



1. カウンセリングの部屋にも、子どもがリラックスできるようなおもちゃなどが置いてある。
2. お話を伺った、いわてこどもケアセンターの副センター長、八木淳子さん。忙しい日々の中、子どもひとり一人の心と向き合う。
3. 砂の入った箱の中に、家や人形などのおもちゃを自由に置いていく「箱庭療法」のためのスペース。



違いに戸惑い、適応できなくなることもあるのです」

子どもに現れる「心の傷」は、震災によるストレスに加え、子ども特有の不安定さ、家族や友人との関係など、さまざまな要素が複合的に絡み合っていることが多く、「多感な時期だから」と見過ごされる場合もあると言います。「親の不安を敏感に感じ取ったり、親が苦しんでいるのは自分のせいではないか、と思い込む子もいます。

また、親自身がトラウマを抱えている場合、震災と向き合うことから無意識に逃げてしまい、子どもが苦しんでいるても『そんなことない』と否定してしまうケースもあるんです。だからこそ、子どもだけを診療するのではなく、親子の関係を含めたケアが必要、と八木さん。

「もちろん、すべての子どもに心のケアが必要な訳ではありません。けれど何か様子がおかしいというときは、まずは一度センターや専門家に相談してみることをすすめます。何もなけ

ればそれで安心だし、もし治療が必要なら専門家の力を借りて原因に向き合い、適切な対応をしたほうがいい」

子どもたちはほとんどん成長していきませんが、震災からまだ4年。心のケアは長期的な支援が必要。いわてこどもケアセンターを拠点に、これからも心の声に耳を澄ませていきたいと話します。

「いわてこどもケアセンター」の待合室。子どもが遊べるスペースにはおもちゃや本が。ソファのレイアウトはプライバシーにも配慮。



いわてこどもケアセンター

紫波郡矢巾町西徳田2-1-1 岩手医科大学矢巾キャンパス内
TEL 019-651-5111 (代表)
http://www.iwate-med.ac.jp/hospital/iwate_children/

震災を「語る」ことが 未来へと進む力になる

宮古市立田老第一中学校



宮古市の北側に位置する田老地区は、市内でも特に被害が大きかった地域のひとつ。津波は、「万里の長城」と謳われた巨大防潮堤を越えてまちを襲い、大量のがれきとともに田老第一中学校に押し寄せました。

「地震の後、学校は避難所にも指定されていたので、生徒はもちろん、地域の人も学校に集まっていました。そのうちに海の方から土煙と津波が来ているのが見えて、『逃げろ!』と声をかけたんです」

そう当時を振り返るのは、学校用務員の琴畑喜美雄さん。その直後、全員が校舎裏手の山へ避難。近くにいた保育所の子どもやお年寄りの手をひき一緒に逃げたといいます。やがて津波は校舎に到達。町を覆い尽くす黒い水と流される家々を、生徒たちは高台から見ていました。

「そんな経験をした生徒たちに、当時は思い出させるような作文や語り部をさせてもいだろうか。当時の先生方はとても葛藤したと思います」と話



校内には「ボイジャー」という震災資料展示室があり、震災当時の避難状況を記録したノートや、震災後の活動の記録など、さまざまな資料を展示。

すのは、この学校に赴任して2年目の三浦猛雄副校長。田老第一中学校では、作文や語り部といった「震災に関する表現活動」を震災の翌年から毎年行っています。生徒や周囲からの反発があるかもしれない、という覚悟をしながらも活動に踏み切ったのは『このつらい体験を未来へ残す教訓にすることで、前向きに歩く原動力にしてほしい』という思いからでした。

現在の表現活動は、総合学習の時間を使って行われています。1年生は震災や復興の現場に行つて「知る」ことからスタート。2年生では防災、科学、歴史などのテーマ(切り口)から震災を掘り下げて学び、盛岡市内の中学校で行う「田老を語る会」で発表。3年



津波の教訓を伝える碑（いしぶみ）づくりも表現活動のひとつ。そのなかから佐々木優子さんの碑文が実際に石碑になり、学校のグラウンド脇に設置されている。



生は修学旅行で訪れる首都圏の学校で「田老を語る会」を行い、震災の体験と教訓を伝えていきます。もちろん「話したくない、思い出せない」という生徒には、無理をさせない配慮もしています。

「本校の生徒たちはみんな素直でやさしい子。いつもはちよつとおとなしいのですが、語り部をしているときは、大勢の人たちの前でも堂々とした発表ぶりを見せてくれます。活動を通して『伝えるための表現力』が身につく、人前で自分の気持ちを話す自信もついたように感じますね」と三浦副校長。保護者からも「家ではあまり話さないけれど、子どもなりにちゃんと考えているんだな、と見直しました」といった声が寄せられるなど、親にとっても、子どもの成長を実感する機会になっているようです。

田老第一中学校の校歌には、こんな歌詞があります。

防浪堤を 仰ぎみよ

試練の津波 幾たびぞ

乗り越えたてし わが郷土

祖父の偉業や 後つがん

これまでに幾度も津波に襲われ、その度に立ち上がって来た田老のまち。津波の経験을忘れてしまふものではなく、語り継いで未来への教訓にしようとする子どもたちの思いは、田老を未来へと導く原動力。それは、生徒ひとり一人の「人生を切り開く力」にもなっていくはずです。

「震災の教訓をどんな風に伝えるか考えることで、自分の気持ちも整理できるような気がします」と、3年生の佐々木優子さん。



「毎日暮らしていると、震災の記憶をだんだん忘れてしまうけれど、語り部の活動は当時の気持ちや、絶対に忘れないという決意を思い出すきっかけになっている」と話す、現在3年生で生徒会長の西川竜斗君。

三陸うまいもん紀行 カフェめし 編

ゆっくり過ごせるカフェは、旅の途中の休憩にぴったり。
美味しいカフェめしで一息入れてみませんか？

陸前高田の野菜たっぷり 農家カフェパスタ

「りんご農家のカフェです。りんごのシーズンはりんごメニューも豊富に用意しています！」と話す、オーナーの熊谷克郎さん

季節野菜のハーブオイルパスタ 820円

2014年7月にオープン。陸前高田産季節の野菜に4種類のハーブを使った農家カフェらしい人気のパスタは、エクストラバージンオイル、フレッシュマトとイタリア産モツァレラを合わせたソースをリングイネに絡めた逸品。爽やかな香りのソースでたっぷりの野菜が楽しめます。陸前高田米崎産りんごをつかった「りんごエール」の樽生（グラス580円）を味わえるのはここだけ！パスタに合わせてどうぞ。キッズプレート（650円）やキッズスペースも充実！子育て世代にも優しいカフェ。

農家カフェ フライパン

●岩手県陸前高田市米崎町字樋の口63-2 ☎0192-55-3358
🕒10:00～21:00(L.O20:30) 🗓️月曜日



オーナーの熊谷さんと有志で企画した米崎産りんご使用「りんごエール」りくぜんたかたは2015年4月から販売開始。りんごの香り漂う本格クラフトビールです。店内では企画応援ステッカー（200円）も販売。

釜石の家庭の味を再現 ここでしか味わえない伝統食

釜石雑煮 648円

2014年12月に小島製菓の和カフェとしてオープン。おすすめカフェめしは釜石の伝統食「釜石雑煮」。シンプルなかつおだしに入ったお餅をくるみだれに付けていただきます。ひめのもち100%のつきたて焼きたてふわふわのお餅は、甘じょっぱいくるみだれと相性抜群。朝についた餅、通称「あさもち」も人気のひと品。釜石のお茶屋「丸山園」の深むし茶(370円)と一緒にひと休み。岩手の方言で「美味しい」をくるみの味がすると言うところも。本当にくるみの味がするひと品です。



シンプルで上品なかつおだしを吸った焼きたての餅は、くるみだれの甘さが染みます。

「店内ではWi-Fiも用意しています!」と店長の菊地菜月さん



餅処 小島かふえ

- 岩手県釜石市大町1-2-10タウンポート大町2F
- ☎0193-27-8885
- 🕒11:00~18:00(L.O17:30)
- 📅火曜日



古川の喫茶店で修行した時の味を引き継ぐ、創業以来変わらないたまごサンド。ナポリタン(600円)も人気メニュー。



「最近では世界各国から観光客も。観光地巡りのあとに立ち寄って」と店長の樋澤正明さんと奥さん



誰もが懐かしく ほっとできるたまごサンド

たまごサンド 400円 (コーヒー付680円)

今年で創業47年目。久慈駅近くの喫茶モカは連続テレビ小説「あまちゃん」の出演者が訪れ話題に。開業当初から変わらない昭和モダンな雰囲気漂う店内で頂く人気メニューは「たまごサンド」。ふわふわとろとろに仕上げたやさしい甘さのたまご焼き、パンに塗られた酸味のあるソースがアクセントになり、一度食べたら忘れられない懐かしい味。持ち帰りも可能ですが、「注文をうけてから作るのでアツアツのうちに食べて欲しい」と店長の樋澤さん。あまちゃん出演者をも虜にした味を楽しみながら撮影のうら話を聞くのも◎。

喫茶 モカ

- 岩手県久慈市本町1-20 ☎0194-52-0677
- 🕒11:00~22:00 📅水曜日

児童・生徒と 各学校の現状

東日本大震災津波では、多くの幼稚園、小中学校高校が被害を受けました。これまでの教育関連の被害状況を踏まえつつ、今号のStitchでは学習環境の復興について考察します。

【出典・参考】 協力：岩手県復興局、岩手県教育委員会 参考：岩手県教育委員会「東日本大震災津波記録紙 不欠」 岩手県「東日本大震災津波からの復興の取組状況について」
【参考URL】 http://www.pref.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/022/898/hukkoujissikeikaku.h27.4seiri.pdf (H27.4.21アクセス)
http://www.pref.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/024/954/02_1ki_ssintyoku_kakutei20140526.pdf (H27.4.21アクセス)

避難所、そして仮設住宅団地に 学校の被災とその後

震災による岩手県内の幼児児童生徒の死者は90人、行方不明者は15人。内訳では高校生の犠牲者数が最も多かった（資料1参照）。なかでも高田高校（陸前高田市）は海まで500メートル程度のところにあり、3階建ての校舎もほぼすべて水に浸かった。また、海辺に教育関連施設があつたことも、被害を大きくした原因のひとつとみられている。

震災直後から学校などの教育施設は避難所として利用され（資料2参照）、ピーク時（平成23年3月中旬）には2万3千人以上が教育施設に避難していたとみられる。最長では同年の8月31日まで避難所として使われた。また、同年4月からは仮設団地の建設と転居も始まり、土地の確保の問題などで校庭に応急仮設住宅団地が設置されたところもある。その合計数は30小中学校2高校（2298戸）におよび、現在でも22263戸の仮

資料2 避難場所になった教育施設数

種別	内陸	沿岸	計
小学校	30(22)	46(42)	76(64)
中学校	13(13)	18(16)	31(29)
高等学校	6(5)	15(6)	21(11)
特別支援学校	1(0)	3(0)	4(0)
文化芸術施設	1(1)	3(0)	4(1)
社会教育施設	59(55)	44(32)	103(87)
社会体育施設	4(3)	14(8)	18(11)
その他の教育施設	1(1)	4(3)	5(4)
合計	115(100)	147(107)	262(207)

()は震災前から避難所指定されていた数

資料1 幼児児童生徒の人的被害(沿岸地域)

	死亡	行方不明
幼稚園	12	2
小学校	17	4
中学校	15	0
高等学校	43	9
特別支援学校	3	0
合計	90	15

資料4 震災津波に起因する児童・生徒等の転校

	県内→県外	県内→県内	県外→県内
幼稚園	46	103	60
小学校	190	484	137
中学校	74	135	46
高等学校	50	63	19
特別支援学校	0	2	1
合計	360	787	263

資料3 学校敷地内の仮設住宅団地の設置状況

市町村	設置場所	建設戸数※1	H27.3.31時点※2
宮古市	5小中学校・1高校	316	285
大船渡市	9小中学校	711	707
陸前高田市	10小中学校・1高校	881	881
大槌町	1中学校	80	80
山田町	3小学校	88	88
田野畑村	1中学校	94	94
野田村	1中学校	128	128
合計	30小中学校・2高校	2298	2263

※1 [建設戸数] はこれまでに建設された最大戸数
 ※2 [H27.3.31時点] で残っている仮設住宅戸数

設住宅が学校の敷地内に設置されている(資料3)。

また、支援物資の保管所としての機能や、自衛隊・ボランティア基地としての運用、遺体安置所、遺失物保管や医療基地として使用されたことがあるほか、学校によっては現在でも教育施設としての機能が一部制限されている。

転出入状況

震災から約1年は、被災地から他の地域への転校も目立った。県外へ転校した生徒は360人(資料4参照)。県内から県内への転校も787人、県外から県内への転入が263人で、年度途中での転校が多かった。

児童生徒の家族や住居の被災によって転居した例が多く、他の理由として東京電力福島第一原発事故後に放射能被害への不安から転居した例もある。震災により、親を亡くした若手県内の幼児児童生徒数も583人になる。

学校統合の動き、今後の課題

震災後の教育関連施設の復旧はおおよその目途が立ち、新しい動きも見せている。大槌町では一貫教育を目指した統合が進み、大槌小、安渡小、赤浜小、大槌北小の旧4校が統合し、平成25年度から新生「大槌小学校」が開校した。その後大槌中学校と統合し、今年度から仮設校舎による小中9年間の一貫校「大槌学園」として開校した。同じく大槌町の吉里吉里小学校と吉里吉里中学校も統合し、「吉里吉里学園」としてスタートしている。

県では、平成26年度から「第二期復興計画(3年間)」を実施しており、教育・文化の分野における主な取り組みとして「スクールカウンセラーの配置による、幼児児童生徒の心のサポート」を引き続き重視していくとしている。また、学校、家庭、地域が連携し、今後の地域コミュニティの形成と合わせた防災教育の見直しも行われていく予定だ。

Stitch INTERVIEW

錦木

にしきぎ

[大相撲力士]

ひとつ一つ、積み重ねて
さらに上を目指したい。



今回Stitch INTERVIEWは、この春

幕下から十両に昇進した錦木閑。6年ぶりの岩手県出身関取として、これからの活躍が期待されています。インタビューでは、関取としての抱負を語ってくれました。

Qまずは、十両昇進おめでとうございます！ 関取となった今の気持ちを教えてください。

ありがとうございます。正式な発表は明日なので（※、気持ち切り替えてこれからもちゃんと稽古に励んでいきたいと思っています）。

※インタビューした日（4月26日）は、十両昇進（新番付）が正式発表される前日

Q今回、十両昇進のお披露目のために盛岡に帰省していらっしゃいますが、今回の盛岡滞在でいちばん楽しみにしていることは何ですか？

今まで応援していただいた方々に、昇進の報告をすることです。お披露目の機会をいただいて、ありがたいなど感じていますし、できるだけたくさん

の人に直接感謝を伝えられたらと思っています。

Q中学卒業と同時に部屋に入門し、10年近く岩手から離れて暮らしていますが、だいたいどのぐらいの頻度で帰省していますか？

だいたい年に1回ぐらい。場所が終わった後が多いですね。

Q戻ってきたときは、どんなことをしていますか？

（笑って）いや、特別なことは特にしていませんよ。応援してください。方々のところにご挨拶に伺ったり、あとは実家でのんびりしていることが多いですね。両親と他愛もない話をしながら晩酌をしたりとか。

Q岩手県出身の関取は、同部屋だった四ツ車以来6年ぶり。岩手の後輩たちにとって、大きな目標になったののではないですか。そんな子どもたちに強くなる秘訣を教えるとしたら、どんなアドバイスをしますか。

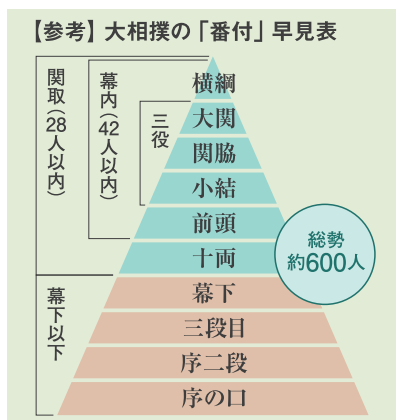
とにかく身体を大きくすること。たくさん食べて、運動もしっかりして、

筋力をつけることが大事かなと思います。自分は中学校を出てから本格的に相撲を始めたので、子どもの頃からやっている人たちなら、自分よりもっと強くなるはず（笑）。基礎を大事に、しっかり練習してください、と伝えたいです。

Q相撲部屋に入るまで本格的な相撲の経験はなかったとのことですが、入門したのは何がきっかけだったのですか？

中学のとき、地元で開催した「相撲健康体操」の講習会に参加して、その

【参考】大相撲の「番付」早見表



とき来ていた当時の親方（11代伊勢ノ海）が目をつけてくれたんです。

Q 親方の目に留まるくらい、体格がよかったですということでしょうか。子ども頃から身体は大きかったですか？（笑って）そうですね。大きかったですね。

Q 相撲の競技経験がないまま、しかも中学卒業と同時に部屋に入門する、ということに不安はなかったですか？

入門を決める前に部屋を見学させてもらったのですが、とても雰囲気がよくて、こなら頑張れるかなと思いました。父が相撲の選手だったので、その影響もあったと思います。

Q 入門してみて、相撲のどんなところが面白い、魅力があると感じますか？

そうですね…（少し考えて）一番は、頑張りが結果につながる場所ですね。稽古はすごくつらいんですけど（笑）、ちゃんと結果が出たときは「強くなったのは稽古のおかげだな」と実感することができません。だからつらく

稽古はすごくつらい。

けれどちゃんと結果が出たときに

「強くなったのは稽古のおかげだな」と
実感するんです。

でも稽古を頑張ろうと。

Q 今回の十両昇進も、つらい稽古を頑張ってきた成果なのですね。十両になったことで、これからの抱負、こんな一番（取組）をやっていききたい、というのがありますか？

今までも稽古を積み重ねてきましたが、これからはよりいっそう稽古に励んでいきたいです。成績としては、まずは勝ち越し（8勝以上）を目指したいですね。相手よりも先に攻めて行くような相撲ができれば、と思っ

すが、「攻めよう」と意気込み過ぎると心と身体がバラバラになってしまいうので、一番、焦らずに落ち着いて取り組んでいけたら。

Q 幕下の力士は1場所につき7番（7回）しか

取組がありませんが、関取になると、15日間連続で取組をしなければなりませんね。そのあたりの不安はありますか。

取組が増えることで、体力的な大変さはあるかもしれませんが、精神的に

はむしろ、時々休みが入るより連続してやったほうが集中できて楽なんじゃないかなと思います。

Q 夏場所からはいよいよ閑取として戦っていくわけですが、今課題として感じていることはありますか？

課題はたくさんあると思います。取組の回数も倍以上になりますし、幕下時代とは体力もスピードも違う強い相手と戦うので。とにかく今は、15日間ちゃんと相撲を取り切って、勝ち越しすることを一番に考えています。たとえ負け越すことがあったとしても、なるべく白星の数を減らさないように、ひとつずつしっかり戦っていきたくいです。そのためにも、稽古をしっかりとやって積み重ねていかなければ。

Q 最後に、Stitchの読者にメッセージをお願いします！

ずっと応援してくれている人はもちろん、岩手の人たちにもっと応援してもらえよう、ちゃんと稽古をして勝ち越しできるように頑張ります！

伊勢ノ海親方にも伺いました！

Q 錦木関のいいところを教えてください

いいところはいっぱいあります。非常に素直で、稽古もまじめにやる。腕力も強いです。ただ、そこ（腕力）に頼るところもあるんで、下半身を含めた身体全体を使うような相撲をしていけば、もっと強くなると思います。

Q これから錦木関に期待するところは？

まずは勝ち越しですね。勝ち越さないことには十両に定着できませんから。さらに十両の上には前頭、三役、横綱と強い力士がたくさんいますから、勝ち残って少しでも上に上がってもらいたいですね。立ち会いは厳しく、チャンスになったら一気に攻める相撲をとれるようになれば、もっと上に行けるのかなと。それは本人も自覚していますし、しっかりと稽古をつけて、頑張ってくれると思いますよ。



錦木 [にしきぎ]

1990年盛岡市生まれ。本名は熊谷徹也（くまがいてつや）。2005年に地元の中学校を卒業し伊勢ノ海部屋に入門。2006年3月で初土俵を踏んだ。2008年7月場所で三段目、2010年1月場所で幕下と順調に出世。2012年7月場所から、四股名を「錦木」と改め、同年11月場所では幕下優勝した。2015年3月場所で西幕下二枚目となり、同年5月場所での十両昇進が決定。西十両十三枚目で9勝6敗と勝ち越した。プライベートではダーツや野球が趣味という一面も。

守りたい人がいる 守りたいまちがある

力をあわせて災害から地域を守る
北上川上流 総合水防演習



2015年5月24日、盛岡市消防本部レスキュー隊による土砂に埋まった車からの救出訓練や岩手県防災航空隊のヘリによる救助訓練が行われた。

地域を守る消防団や水防団
災害があった時に頼れる人たちのことを
知っていますか？

消防団とは、消防組織法に基づき、消防署と共に火災や災害への対応、予防啓発活動等を行う消防組織。盛岡市消防団の団員数は1145名（4月1日現在）で、うち女性団員は55名。団員の多くが会社勤めや自営業などで働いています。「みんな仕事をしながらも、自分の地域を守りたいという思いをもって消防団に参加しています」と盛岡市消防団団長の藤澤良悦さん。地域の見回りから、災害時には防災の大きな役割を果たす消防団。水害の発生時には「水防団」としても活動します。

川の増水が多くなることから「水防月間」に定められている5月24日、水防団による「北上川上流総合水防演習」が、盛岡市北上川河川敷で行われました。主催は、北上川流域15市町、岩手県、国土交通省東北地方整備局。盛岡市での開催は19年ぶりでした。

水防演習には、北上川上流域15市町



住民の簡易水防工法体験や避難訓練も行われた。日頃から住民が防災に参加する意識を持つことも大事。

の消防団や市民など約1960人が参加。台風が接近、大雨により川がはん濫危険水位に達し堤防越水決壊することを想定したタイムライン（防災行動



計画)に沿って対応訓練が行われました。水防団は、日頃の洪水対応訓練で鍛えた水防工法を披露。河川巡視により堤防の被災箇所が発見されると、土のうを積み上げて固定するなど、堤防の漏水や亀裂、決壊などに対応する水防対策を手順に従い迅速に実践しました。同時開催の防災展では、災害対策車の展示やさまざまな事業者の防災の取り組みが紹介されました。

「東日本大震災の時、盛岡市は停電かなりの被害でした。でも、2013年は玉山区や雫石町で大雨による洪水や土石流の被害を受けました。川沿いの人は特に、警戒情報が出たら油断しないで、川に近づかない、情報収集をして避難指示が出たら避難するなど、



盛岡市消防団によって行われた土のうを積んでの水防工法訓練。

盛岡市消防団では新団員を募集中!
盛岡市消防団：<http://www.mvfc.jp/>

とにかく考えて行動することが大事です」と藤澤団長。市内の消防団団員数は減少傾向にあり、高齢化が課題。「自分たちのまちを自分たちで守るということに参加してもらって、地域防災力を高めて欲しい。是非地域の消防団に参加してもらえれば」と呼びかけます。

盛岡市に通勤または在住の18歳以上であれば誰でも参加できる消防団。興味がある人はお住まい地域の消防団分団に問い合わせを。

Re:Stitch

～読者のみなさんから～

Stitch (ステッチ) に寄せられた声の一部をご紹介します。みなさんのご意見を参考に、よりよい誌面づくりに取り組んでいきます。これからもご意見・ご感想よろしく願います。

今回たまたま道の駅でみつけて手に取りました。私は八戸市民で、久慈や種市あたりまではたまに行くことはありました。その先の被災地まで行くことがないので、最近はまだ被災地の様子を思い浮かべることが無くなっていました。今度は久慈から先に足を延ばして、もっと南を見たいと思います。「三陸うまいもん紀行」に興味を惹かれました。特に短角牛の「べっぴん飯」。丼ものは手軽で食べやすいので、もっとたくさんのもを知りたいです。

●30代 男性 / 会社員 (八戸市)

4月から保育士になった伊藤さんへエールをおくりたいな～と思いました。私の前職は保育士。8年間勤めました。あこがれだけではできない仕事だと実感しています。ぜひ、夢だった保育士の仕事に誇りをもって欲しいです。

●40代 女性 / 派遣社員 (福岡県)

震災後、野田でガレキ拾いのボランティアをして以来その場所に行っていなかったもので、春休みを利用して訪ねました。そこでStitchを見つけ、野田塩ソフトを食べながら読んだ次第です。あれから何年も経ち、ちょっと自分の中では意識が離れていた事に気づかされ、そのまま野田から45号を南下し沿岸を見てきました。初めての事です。工事の進む港、盛り土、数々のダンブカー。復興にはまだ労力と時間が必要と感じましたが、Stitchで紹介されているような人々の活動、一步一步前向きに進んでいることも分かりました。また、ぜひ自分の目、足を働かせて、Stitchをお供に復興を応援していきたいです。

●30代 女性 / 教員 (二戸市)

今回初めて「Stitch」拝見しました。娘が釜石の高校に通っているのので釜石に行く機会が結構あります。さびついた仮設住宅は前を通るたび胸が痛くなります。皆さんが住みよいところに行けますように。

●40代 女性 / 主婦 (遠野市)

積み重ねた時間は未来への足あとですね。

●50代 女性 / 主婦 (長野県)

はじめて読ませていただきました。表紙がカラフルなブックのおもちゃで明るく自然に手に取りました。フリーマガジンとは思えない程内容の濃い冊子ですね。「復興応援」とありますが、決して重い内容ではなく沿岸の人たちの笑顔やスポーツ企画で楽しめました。どうかこれからも「Stitch」がつづきますように。いろんな思いがあるはずの沿岸の人たちの笑顔を見るだけですごく勇気づけられます。負けないで!

●30代 女性 / 主婦 (盛岡市)

みなさんのおかげで災害住宅も決まりました。ありがとうございます。

●50代 女性 (宮古市)

初めてStitchを読みました。岩手県の復興にかける熱い想いがとても伝わり、私も祖母、叔父、叔母を津波で失い、とてもとても気持ちがかかります。お互い、被災地が共に元気になれるようこれからも頑張りたいですね。多くの情報と、写真がとてもきれいで読みやすいのと皆さんの気持ちが伝わり感動しました。

●40代 女性 / パート (宮城県)

全国にStitchを広めようプロジェクト!



Stitchの配布にボランティアで協力してくれるサポーター（個人、企業・団体）を随時募集しています。Stitchを全国に広めることで、少しでも震災の風化を防ぎたい! みなさんのご協力、お待ちしております。(年4回発行 / 6月、9月、12月、3月)。

A Stitch配布サポーター [一口10部から] ご近所やお友達、グループなどにStitchを配布していただける個人。

B Stitch サポーターショップ・団体 [一口30部から] Stitchを設置していただけるお店、企業、団体。

※詳細は、HPまたはFacebookページ (<https://www.facebook.com/moriokastitch>) をご確認ください。

[募集方法] メール・はがきに ①氏名 (Bの場合は企業・団体と代表者名) ②住所 (郵便番号も) ③電話番号 ④メールアドレス ⑤希望口数 ⑥(Bの場合)設置予定の場所と方法 ⑦ご意見・ご感想を記入の上、ラチオもりおか内「Stitch編集部 サポーター係」宛てに応募。
[応募先・問い合わせ] stitch-supporter@morioka-fukoku.com ※郵送先住所は、プレゼンテーションを参照

読者プレゼント

復興応援をしているお店や企業・団体の
おいしい逸品やオリジナルグッズをプレゼント!
ご意見ご感想を書いてぜひ応募ください!!

1 大槌復興米 300g(2合)パック

5
名様



東日本大震災の津波により流失した大槌町の民家跡に実っているのが見つかった奇跡のお米。その種籾を復興のシンボルとして大切に育てたの

がこの大槌復興米です。逆境を乗り越え、負けずに実ったお米をぜひご賞味ください。

遠野まごころネット: <http://tonomagokoro.net/>

■提供 / 遠野まごころネット

2 南部鮭冷燻スライス

3
名様



冷燻法で製造した鮭は生ハムのようなしっとりとした食感が特徴。寒冷地の冷気とクリ・ナラ・ブナ・シラカバ等の広葉樹の煙の薫りが、鮭や塩の味

と相まって独特の旨味を生み出します。人工調味料を一切使用していない、自然の味わいをお楽しみください。

南部鮭加工研究会: <http://www.sakereikun.fhd.jp/>

■提供 / 南部鮭加工研究会

3 陸前高田の一本松 (竹炭バウムクーヘン)

3
名様



奇跡の一本松の幹をイメージした、なが〜いバウムクーヘン。生地に竹炭が練り込まれているのでまっ黒! 長さ約39cm、直径約6cmもあるので、

お好みの大きさに切ってお召し上がりください。陸前高田物産センターとたがだ屋だけのオリジナル商品です。

陸前高田地域振興株式会社: <http://www.rikutaka.co.jp/>

■提供 / 陸前高田地域振興株式会社

4 山田の牡蠣くん 小瓶(100g)

3
名様



岩手県山田湾産の厳選した大粒な牡蠣のむき身を独自の製法で加工して燻製に。味付けはミネラル豊富な天然塩と、オレイン

酸を多く含むオリーブオイルだけを使用しました。保存料、化学調味料は一切不使用。パスタやサラダに合わせても、そのままでもおいしくいただけます。

株式会社 山田の牡蠣くん: <http://kakikun.shop-pro.jp/>

■提供 / 株式会社 山田の牡蠣くん

応募方法

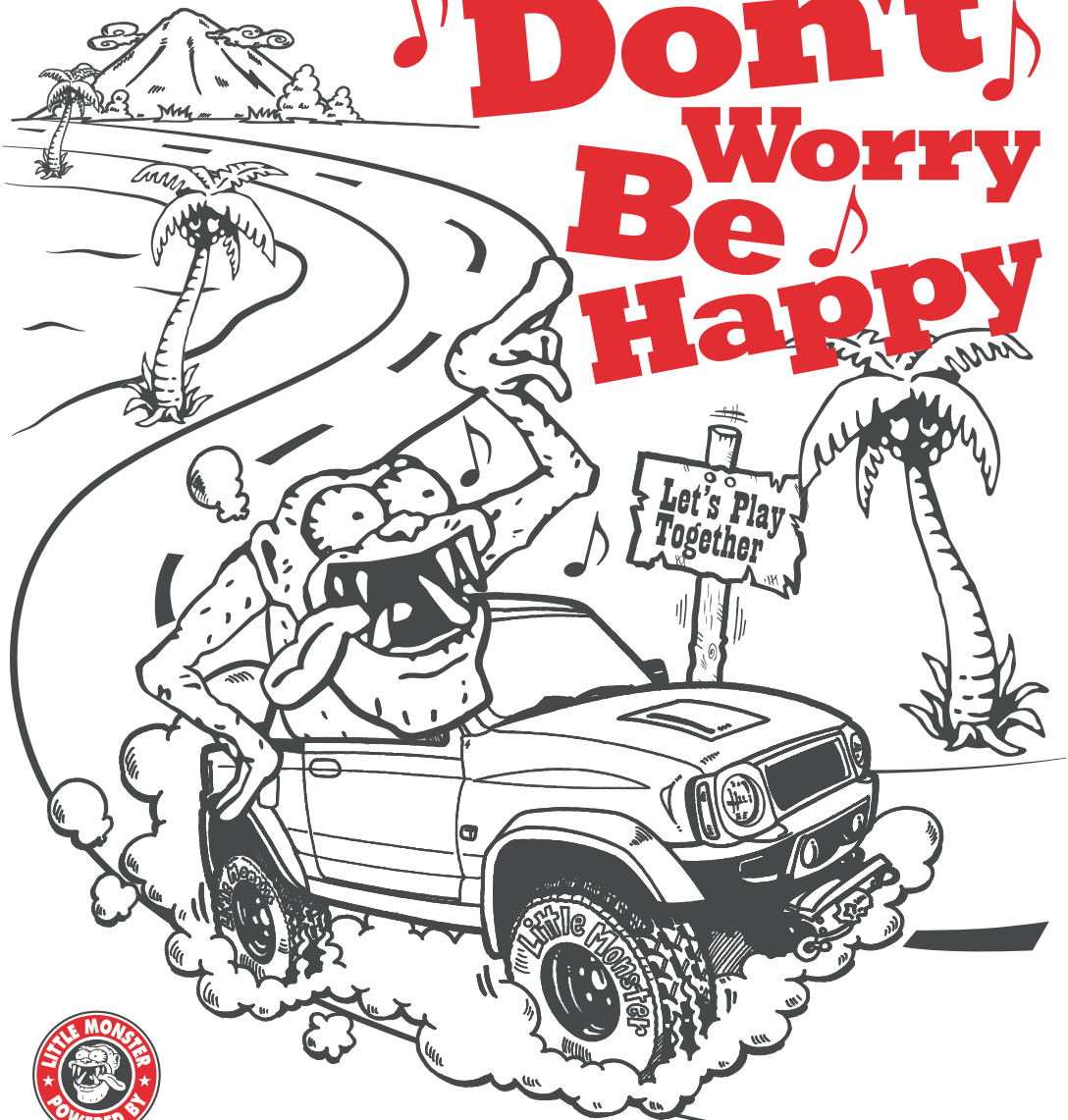
- 応募方法 / 必要事項 (希望商品、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、本誌入場場所、ご意見・ご感想) を記入の上、はがき、もしくはメールでご応募ください。
- 宛先 / 〒020-0871 岩手県盛岡市中/橋通1-1-21 ラヂオもりおか内「Stitch」編集部 プレゼント係
- アドレス / stitch@morioka-fukkou.com ■ 応募締切 / 平成27年8月7日必着

Stitch 設置場所

【岩手県内・盛岡】MOSS / クロステラス盛岡 / 盛岡南SCサンサ / ななっく / おでっ / アイーナ / 盛岡バスセンター / IGRいわて銀河鉄道 / もりおか歴史文化館 / 岩手県立図書館 / 盛岡市立図書館 / ジョブカフェいわてなど街中各店 / 岩手県内道の駅 / 三陸沿岸各店 【岩手県外】いわて銀河プラザ(東京) / Cafe Hi famiglia(東京) / さくらWORKS<関内>(神奈川) / 喫茶ともしび(東京) / 風の駅(京都) / OMAR BOOKS(沖縄) 他

次号 Vol.17 は、9月発行予定

Don't Worry Be Happy



N's STAGE GROUP Original Character "LITTLE MONSTER"

「リトルモンスター」は、2004年に誕生したエヌ・ステージグループのオリジナルキャラクターです。当時エヌ・ステージはジムニーのカスタムモデル「エヌリミテッド」の展開に力を入れており「小さいボディに計り知れないパワーを持つ」ジムニーを表現するキャラクターとして「小さい怪物(リトルモンスター)」は生まれました。

Let's Play Together
N'S STAGE GROUP

N'S STAGE GROUP HEAD OFFICE (シボレー盛岡内)

〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳11-8-10

TEL.019-632-6222(代) FAX.632-6223

エヌ・ステージグループ総合受付ダイヤル

0120-489-025

国産車	スズキアリーナ エヌ・ステージ 盛岡	〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳12-19-1
	ジムニーワールド 盛岡	〒020-0835 岩手県盛岡市津志田15-27-5
輸入車	ジムニーワールド 仙台南	〒981-1232 宮城県名取市大手町5-17-17
	ジムニーワールド 東京 江戸川	〒134-0013 東京都江戸川区江戸川15-40-13
	エムススピード盛岡	〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳11-8-10
	西根自動車 [民間車検指定工場]	〒028-7111 岩手県八幡平市大更26-86-1
	カーセブン八戸東 [ジムニーワールド青森]	〒031-0822 青森県八戸市白銀町字三島上33-1
	シボレー盛岡	〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳11-8-10
	ピアンコカーズ	〒020-0835 岩手県盛岡市津志田15-27-5
	クライスラー・ジープ青森八戸 / フィアット・アルファロメオ青森八戸 "COMING SOON"	